

## たまの版 CCRsea 懇談会 第 2 回会議 議事概要

日時	2017 年 3 月 24 日（金）10:00-11:30
場所	玉野市役所 3 階 特別会議室
出席者 (敬称略)	<b>【懇談会委員】</b> ◎は座長 ◎学校法人加計学園玉野総合医療専門学校 介護福祉学科長 五嶋 幹雄 玉野市観光協会 専務理事 池田 敦子 玉野市社会福祉協議会 総合福祉課長 三宅 啓之 玉野商工会議所青年部 会長 岡崎 晋典 ※UNO I C H I 実行委員会 営業部長 福嶋氏は欠席
	<b>【事務局】</b> 玉野市政策財政部 部長 加藤 翔大 同 総合政策課課長 中嶋 英生 同 総合政策課課長補佐 小笠原 隆文 同 総合政策課中心市街地活性化対策室主事 佐々木 裕介
	<b>【平成 28 年度生涯活躍のまちに係る調査研究業務 受託者】</b> 株式会社日本総合研究所 黒澤隆
配布資料	たまの版 CCRsea 懇談会 第 2 回会議 次第 たまの版 CCRsea 基本構想

## 議事：

### 1. 開会

### 2. 開会あいさつ

### 3. 議事

(1) たまの版 CCRsea 基本構想の策定について（資料「たまの版 CCRsea 基本構想」）

事務局より、資料「たまの版 CCRsea 基本構想」について、説明。

委員 B : ローカルブランディングの確立に際して、「お宝たまの印」などの既存のものがあるため、新たにブランドに使用する名称の刷り合わせを、あらかじめ関係者間で行っておく必要があるのではないか。

事務局 : 今後検討を進めていく。

#### ○コンセプトについて

委員 D : 玉野市にある地域資源を活かしていく観点からすれば、基本的には記載している要素で取組んでいく他ないと感じている。ただし、アートについては、取組の難しさを感じている。

委員 A : アートに関する取組の難しさについては同感で、瀬戸内国際芸術祭の枠組みで玉野市独自の取組を行おうとしても、瀬戸内国際芸術祭の事務局にその都度調整を行わなければならない、中々取組にくいと感じている。一方で、駅東創庫のような、瀬戸内国際芸術祭に直接関わりのない玉野市独自の資源については、独自の取組が可能と思われる。

事務局 : アートについても、事業推進主体からの提案事項であり、実現可能で、かつ、取組として有意義なものを評価していきたい。

委員 B : アートに関連したグッズなどについて、著作権の制約がある。自由に使えたら観光振興の取組も行いやすいと感じている

事務局 : そのような制約を取り除くのが行政の役割であるので、できることとできないことはあるが、今後対応を進めていきたい。

委員 A : 外国人の方も宇野港に着いてすぐにフェリーに乗船してしまう現状を改善するためにも、このような取組を進めていくべきと感じている。

#### ○基本方針について

委員 C : 前回の懇談会の意見を踏まえて、「地域包括ケア」等について記載いただいているが、それが故に、構想のサブタイトル「若者が軸となる生涯活躍

のまち」の若者感が弱くなっているように感じる。19頁図表13において、「障害福祉」の表記ではなく、高齢者から若者、障害者を含めた全ての方を含めた「福祉」としてはいかがか。

委員D : 基本方針を眺めていると、総じて市がこれまで問題意識を持っていたことを、改めて整理し、今回の取組を機に様々な問題解決に繋げる施策と感じる。それぞれ事業を実施すべきとは思っているものの、具体的事業がまだ見えていないため、今後、基本構想に沿った事業展開に期待する。

委員A : 市内全域への効果の拡大にしても、どうやって市内全域に広げていくか、具体的な取組について今後検討していく必要がある。例えば、宇野で回遊できる仕組みを作り、それから市内各拠点と点と点を結んでいくというように、今後の取組について市にも充分考えて頂き、絵に描いた餅にならないようにしてもらいたい。

委員D : 念のため確認だが、「若者が軸となる生涯活躍のまち」というサブタイトルは重要視しているという認識でよいか。

事務局 : 認識の通り。

委員A : 「生涯活躍」という言葉もあるとおり、色々な世代と一緒に活躍していくというイメージを出しているだろうという印象を受けている。若いうちから生涯にわたって年齢の高い方々も含めて協働していけるという点からは、これで良いのではないかと感じている。

### ○取組について

委員D : 取組の全体像については、事業主体がどんな事業を作り出すかに全てがかかっている。事業主体になる企業については、どのようなイメージを持っているのか。

事務局 : 市内外の企業からの提案を受けることを想定している。一方で、市外の大手企業が事業推進主体となった際は、市内の企業も巻き込んだ形で事業展開を行うことをポイントの一つとして考えている。

委員D : 地方創生をテーマに大手コンサルティング会社に委託し、似たような事業を推進する自治体を多く目にしてきた。当該事業は玉野市ならではの個性ある事業が行える事業主体に担ってもらいたい。

委員B : 中核エリアについては、どのようなイメージを持っているのか。

事務局 : 中核エリアについては、事業推進主体から提案を受ける予定である。一定程度の開発を行うのであれば、まとまったエリアが必要となると考えている。その際に、市有地の活用を行いたいと希望する事業者がいれば、当該事業者と活用について協議する予定である。

- 委員 B : 事業主体は、玉野市のことを一定程度調べているとは思いますが、実際に滞在することで分かることもある。玉野市に1日來訪して1泊して帰ってしまうのではなく、一定期間滞在してもらって、まちの空気を感じ取ってもらい、玉野市に合った事業の展開を行っていただきたい。
- 委員 C : 事業推進主体について、最後の章にいけば理解できるのだが、イメージが付きにくいので、「たまの版 CCRsea 推進主体」という言葉にすれば良いのではないか。
- 委員 D : 自走するまでの期間については、行政から支援は行わないのか。
- 事務局 : 平成31年度までは、市から補助を行う予定である。一方、平成32年度からは自走してもらうことになり、そのためのビジネスプランについてもしっかりとした事業者を選定する必要がある。
- 委員 A : 自分達が自助努力して健康維持できるという仕組みづくりが国としての基本政策でもある。そのような健康維持・増進をきちんと取組んでくれる事業者を選んでくれるかが、鍵となると認識している。
- 委員 B : また、福祉面や観光面を考慮した交通についても取組を進めてほしい。シーバス、シータクについては、みやま公園に到着後、10分程度で次の便が出発してしまい、みどりの館みやまで買い物を終えた利用者が長い時間待たされてしまうことがあり、利用者の利便性を考えてない状況となっている。
- 委員 A : シーバス、シータクについて、使いづらいという評判を聞いている。ダイヤについて利便性を高める工夫が必要である。
- 委員 B : コールセンターは乗り継ぎ時間等調べて細かく教えてくれるが、やはり乗り継ぎなしで市街地へ行ける方がいい。
- 委員 A : 交通面については、住み易いまちづくりに向けて、行政側で検討を進めていってほしい。
- 事務局 : 本構想の推進により、環境が変化し、公共交通についても再検討する必要があるため、行政として、市民の利便性の高い公共交通としていきたい。

#### ○全体を通して

- 委員 A : 全体を通して何かあれば、皆様からのご意見を伺いたい。
- 委員 D : 移住者ありきなのか。
- 事務局 : 国が考える生涯活躍のまちは都会からの移住や市内移住を前提としているため、本構想においても、移住者をきっかけに、多世代交流によるローカルブランディングの確立や人材育成等の特色ある事業展開を実施する。
- 委員 D : 移住者確保に向けてどのような取組を行おうとしているのか。

- 事務局 : 本市にゆかりのある企業の社員やOB等に対し、パンフレットの送付や玉野市のPR等による移住促進を想定している。
- 委員D : 移住者の規模について、どの程度を考えているのか。
- 事務局 : 様々な取組事例を見ると、100名程度を想定している自治体が多い。本市における移住者の規模については、事業推進主体からの提案や今後の事業展開によって変わってくる。その中で、移住者の内訳として、大都市圏からなのか、岡山市などの近隣市からなのかは、状況次第と考えている。
- 委員B : 移住後も働きたいと思っている移住者は、起業ばかりでなく、企業等での就業を希望する人もいるはずである。ハローワーク等と連携し、就業支援についても行った方がよい。
- 事務局 : 就業については、基本的には斡旋となると考えている。
- 委員C : 4頁図表3をみると、0～14歳については総じて転入の方が多いと見受けられる。即ち、医療費が無料だったり、地域ボランティアが学校にかかわったり、待機児童がゼロだったりする市の特徴から、子育て世代にも玉野市が魅力的に感じてもらえているのではないか。また、気候が温暖で災害が少ない点についても、魅力だと思う。市としてはこうした点をもっとアピールしていけばよいのではないか。
- 委員A : 「玉野市は魅力あるまち」というイメージを持ってもらうことが重要である。まずは玉野市に一度は来てもらうような仕組み、その上で、一度来た人にそのまま住んでもらうということに繋げていければよい。その意味でも、玉野市の良いところをどんどんアピールしてほしい。
- 委員A : 玉野市の独自性も入れながら、伝えていくことが大事である。また、若者が軸だが、あらゆる世代を巻き込んでいくことや事業をしっかりと推進していく主体を確保していくことも大事である。それに関して、事業推進主体は、玉野市のことを良く理解した事業者にとって欲しい。

#### 4. その他

- 事務局 : 委員会の皆様からいただいた意見を基本構想に盛り込み、3月中に基本構想を取りまとめる。

#### 5. 閉会

以上